

サクセスストーリー

日立ストレージソリューション

稼働中

TNT

業種 物流サービス

ソリューション ストレージ仮想化／統合

ハードウェア — Hitachi Universal Storage Platform VM

ソフトウェア — Hitachi Device Manager, Hitachi Dynamic Provisioning

サービス — Storage solution consultancy and migration support
and monitoring provided by Hitachi Data Systems



「日立のDynamic Provisioning機能のおかげで、数多くの重要な課題を大変簡潔に、また低コストで実現することができました。大変満足しています。」

Julian Ariel
ストレージマネージャ
TNT ICS



TNTは、日立データシステムズとともに、環境にやさしく、効率の良いストレージを展開します。

物流と輸送をリードするTNT社は、24時間7日体制のビジネスモデルを支える為に、堅牢なITおよびストレージのインフラを必要とします。TNT社は、ビジネスの成長を支え、電力の効率化という目標を達成するために、Hitachi Universal Storage Platform VMとHitachi Dynamic Provisioningソフトウェアを導入し、ストレージ管理を簡素化すると同時に、ストレージ資源の仮想化および統合化を果たしました。大幅な省電力化を実現し、より機動的なストレージのインフラを構築したことで、TNT社は、これから先何年もの間、業界をリードしていくのに十分なシステムを整えました。

TNT社は、運送、物流業界の世界有数のリーダとして、200を超える国々で、小包、書類、貨物の集荷、運送、仕分け、処理、および保管を行っています。郵便物とエクスプレスの2つの事業部にわたって世界中に163,000人の社員を抱え、2008年度の売上げは111億ユーロと報告されました。顧客の主流は法人で、ビジネス上の締め切りやクライアントの要求を満たすために、安全かつ迅速な小包の配達をTNT社に託しています。したがって、TNT社が最も力を入れているのは、輸送手段からITリソースまで、管理の優れたインフラをベースとする完璧な顧客満足度を達成することです。トラッキング、請求書作成、顧客サポートといった重大なビジネス業務を支えるのにITアーキテクチャーへ大きく依存するので、その最適化のために、

TNT社は積極的なアプローチで継続的に対処しています

ビジネスの急成長、限界のストレージ

TNT社は、ビジネスの成長に伴い、大量のデータを安全に保管してアクセスできるように、ストレージを次々と買い足していかなければならなくなりました。TNT ExpressのITサービス部であるTNT ICSのストレージマネージャ、Julian Ariel氏は次のように説明します。「弊社のストレージインフラは、過去5年間のあいだに著しく増大し、その結果、複数のベンダーからストレージシステムを寄せ集めて間に合わせていましたが、管理に手間がかかるものになってしまいました。そこで、弊社の技術者が同一のツールを使って単一のプラットフォームを管理できるように、ストレージ資源を統合したいと考えたのです」

また、Ariel氏のチームは、この統合により、ストレージインフラにかかる床面積を縮小し、省電力を行いたいと考えていました。

TNT社は、ストレージプラットフォームの管理を簡素化するだけでなく、エネルギーの効率を図るために、ストレージ階層の最適化も熱望していました。それには、最も新しいデータや重要なデータだけが「最上」層に保存されること、必要に応じてデータを容易にストレージの階層間で上下に移動できること、という条件を満たすことが必要でした。

こうしてTNT社は、新しいストレージプラットフォームに投資することを決定し、エンタープライズとミッドレンジのストレージソリューションの両方に目を向けて、入手可能な選択肢の調査に乗り出したのでした。「エンタープライズクラスの信頼性のあるものを探していましたが、もう少し手頃な価格のものが欲しかったのです」とAriel氏は語ります。

Ariel氏のチームは、床面積と電力の効率、および管理の単純化を重要な要件としてストレージリフレッシュソリューションの、提案要求書(RFP)を提出しました。

また、将来的なビジネスとデータの継続的な増大を支援する拡張性と柔軟性に優れているもの、ということも取り込まねばならない要件であると考えていました。

柔軟性のあるシステムを構築する

TNT社は、多種多様な選択肢を検討したあとで、実稼動環境およびテスト環境の一部の仮想化を支援する、日立データシステムズのストレージソリューションを導入することにしました。ストレージ容量が30TBのHitachi Universal Storage Platform VMを購入し、必要に応じて10TBの拡大ができるというオプションをつけました。日立のシステムが投入されたのは、TNTのプライマリ UKデータセンターでした。

「日立のDynamic Provisioning機能のおかげで、数多くの重要な課題を大変簡潔に、また低コストで実現することができました。大変満足しています。柔軟性が高く、年中無休というビジネスモデルを支える可用性を保持する一方で、ストレージ資源の活用を最適化することができました」とAriel氏は説明します。ソリューションの導入とデータの移行はスムーズに運びました。

「今ではプラットフォームがずっと分かりやすくなって、ダイナミックにプロビジョニングされた容量の活用が一目で見えるようになりました。これで、ストレージの増設などのリクエストに以前よりも速く対応できるようになり、この業界で成功するのに不可欠の24時間7日体制のサービスを十分続けていけるようになりました」この透過的なストレージ管理機能のおかげで、階層ストレージを最も効率よく使うことができるようになっていきます。

Ariel氏はこう結びました。「これまで日立のソリューションがもたらした結果に非常に満足しており、是非そのメリットを他のストレージ環境にも広げていきたいと考えています」

「これまで日立のソリューションがもたらした結果に非常に満足しており、是非そのメリットを他のストレージ環境にも広げていきたいと考えています」

Julian Ariel
ストレージマネージャ
TNT ICS

支援にたった日立データシステムズのコンサルタントチームは、TNT社のIT環境を熟知し、新しいハードウェアおよびそれをサポートするソフトウェアの順調な導入という目標をよく理解して進めることができました。ソリューションの一環として、Hitachi Device Managerソフトウェアがインストールされ、Ariel氏のチームは、ストレージ環境のかなりの部分を単一のコンソールから管理できるようになりました。

改善され、環境に優しくなった運用環境

TNT社のICSチームは、システム導入以来、ストレージ資源の管理がずっと簡単になったと感じていました。Ariel氏はこう語ります。

Ariel氏は続けます。「日立のプラットフォームには、価格面でも非常に満足しています。購買価格、運用費、TCOの面からいっても、コスト効率のよい製品ですね」またTNT社は、Hitachi Universal Storage Platform VMのおかげで、エネルギー効率の改善も享受しています。新しいストレージインフラに取替えて、エネルギーの節約は、全体で9.2%の削減と算出されました。新しいプラットフォームのメリットを直接体験したチームは、現在、次のステップを計画しています。日立データシステムズの技術に基づいて、第2ストレージシステムをディザスタリカバリ・サイトに追加し、これによって、ビジネスに重要なデータを2つのストレージシステム間で複製し、既存の筐体内のディスクレプリケーションミラーリングシステムをさらに補完・強化する、というのが、チームの意向です。